

児童発達支援事業 事業所における自己評価総括表

○事業所名	子ども支援室 えがお			
○保護者評価実施期間	2025年 3月 1日 ～ 2025年 3月14日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	17人	(回答者数)	14人
○従業者評価実施期間	2025年 3月 1日 ～ 2025年 3月14日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7人	(回答者数)	7人
○事業者向け自己評価表作成	2025.年 3月19日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている 取組等	さらに充実を図るための取組等
1	職員配置の充実が、保護者の安心につながっていると感じる。	1対1配置にはこだわっている。加配が行動を促したり、承認したり個別で行う。 対人関係の面でも介入しやすい。	2年目になる子や発達課題の問題で一呼吸おいて子ども自身の発信、行動を促していく
2	保護者に寄りそい共感していく姿勢を取ることが出来る。	保護者とのコミュニケーションはスタッフで大切にしている。 保護者の子育ての頑張りを理解し、応援していく姿勢をとっている。	自宅での子育ての困り感を引き出し、どのように支援をしたらよいかなど家庭でも般化できるようにする。
3	未来館がすぐそばに合ったり活動の楽しさは感じられる環境にいる。	室内での取り組み、机に向って、散歩、公園、未来館の取り組みを一日のスケジュールで配分している	事業所で未来館等に出かけることで家族でも行きやすくなることをねらう。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	伝わっていることと、伝わっていないことが有る。子どもに対しての内容は伝わっているが、事業所としての内容等は伝わっていないように感じている。	SNSでは児童の様子など、児童関連の内容を送っているので大丈夫となっていないか？共有という面では相手側からの発信は受けられてない。一方通行になっていないか？ 特に小さく、活動の内容を伝えられない子どもたちであるので、配慮できているか？	懇談時、通信やSNSで事業内容や取り組みのスケジュールを保護者にも伝えられるように。マニュアル等の共有もできないか？アプリの使用を考えていけないか？ 個人情報の問題もあるので、流出などの配慮も必要である。
2	職員間での研修、事柄の共有が時間環境でむづかしい。	時間をうまく使う工夫が出来ていない。 打合せなどの内容を記録で読むことはできるが、考えを返すことができていないように感じる。	日にちを決めて会議の時間を共有する。 1対1つかなくても取り組める時、午前、午後の先生で支援職員を入れ替わって話し合いをする時間を計画的に持つ。
3	地域との交流、園との交流は保護者が望んでいることなのか方向性を明確にできていない。	相手先の理解がいただけるか？ 声でパニックになったり、コミュニケーション、社会性の部分でトラブルにならないか・配慮点等の検証が出来ていない。	外遊び公園等での時間をまず共有していくなどの少しずつ交流していくことをおこなっていく方向で考えていく。 未来館、地域のイベント参加を考える。 障害の理解ということで事業所参観を地域の方に呼びかけて知ってもらう事等企画していくのはどうか？